

「もっと上手になりたい！」学生のやる気を引き出します

神戸学院大学 経営学部

准教授 山本誠子 様



GlobalvoiceCALL

経営学部では スピーキング能力の向上を目指す科目を提供しています。その基礎となる1年次科目「コミュニケーション英語Ⅰ」では、「耳と口の筋トレ」をテーマに、リスニングと発音のポイントを中心に授業を行っています。

この授業の発音練習では、日常会話に使用される比較的短い例文を使ってポイントを説明し、練習後3～5文程度を選びGlobalvoiceCALL（GVC）で録音・評価しています。GVCだけで評価する訳ではなく、教員が直接個別指導をすることと組み合わせて使用することで、学生の満足度は比較的高いと考えています。

半期授業終了後の学生へのアンケートでは、次のような意見・感想がみられました。

1. 操作性

最初の授業では、教員が作成したマニュアルを参照しても、学生は操作方法に戸惑っていましたが、2回目以降はスムーズに操作をしていました。GVCは自由にコンテンツを追加できるのが特長で、教員が教科書の英文を校内e-learningシステムにアップしておき、学生はこれをGVCに読み込みます。パソコン操作が苦手な数名の学生は、「もっと簡単に英文をGVCへ読み込めるといいのに」とコメントしましたが、慣れてしまえば問題はなく、コンピュータの基本的な技能の習得につながるという副産物も生まれました。

2. 評価結果

- ・ Goodを出すのが難しく評価は厳しいが、やりがいを感じられ、良い判定をもらえるよう頑張ることができた
- ・ 間違っている発音が、様々な項目で評価されていたので、問題点がわかり発音力の向上につながった
- ・ 毎回同じように発音しても評価が違うことが多かったのが難しく感じた

授業中に観察していても、意欲のある学生は何度も挑戦して、コツをつかんでいく様子がわかりました。1つ注意しなければならないのは、GVCの評価はあくまでもモデル音声にどれだけ近く発音できるかを判断するので、教員の耳には十分合格点であっても、それが点数に反映するとは限らないということです。この点、学生のやる気をそがない工夫が必要だと思えます。

3. 学生が感じた英語発音への影響

- ・ 前よりも発音を意識するようになった

- ・ 他の授業でも良い発音を意識して読むようになった
- ・ イントネーションやリズム、単語と単語のつながり、なくなる音などを意識して読むようになった
- ・ 客観的に発音を見ることができて、どこを直すべきかはっきりした

概ねプラスの評価を得られたと判断しています。特にイントネーション改善への意識が高かったことが印象的です。

学生は2年次に「コミュニケーション英語Ⅱ・Ⅲ」を選択科目として受講しますが、その担当教員からは「コミュニケーション英語Ⅰを履修した学生は説明しなくても音声変化等を理解・実現していて、他の学生にも教えてくれる。」とのコメントをいただきました。学生がスキルだけでなく、ルール化した知識も身につけたことがわかります。自己分析・自己修正を繰り返していく過程で、学生の学習意欲が高まったのだと評価しています。

[2013.06.13]

神戸学院大学

<http://www.kobegakuin.ac.jp>

